

(六) 其の他

(1) 繭価事情

糸価の好況、原料繭の不足、養蚕家側の強腰、製糸家筋の円レート改訂見越しの思惑もあり、繭価は昂騰し(福岡、甲府、松本、仙台、前橋)、特に晩秋繭は初秋繭に於ける中小ブローカー、座繰方面の買進みに代り、大手筋の買漁りが顕著にみられ(甲府)、群馬県、山梨県に於ては一万掛を突破するに至つた(前橋、甲府)。之が資金の出所としては、過去に於ける生糸闇売り代金、第三者融出金もみられるが、旧繭資金の未返済分の流用によるものも少なくなく、その他金融機関に提出の繭繭予定量を遙かに下廻る小量繭に集中使用している向もあるものとみられている(松本)。又繭融資を甘くみて、明年の地盤確保の気配もみられる(福島)。かゝる折柄本行繭繭スタンブ手形の限度を最高五、一〇〇掛に押えたことに對しては市銀筋は好感を以て迎え(前橋、松本)養蚕、製糸両団体も漸次自重的態度を示しているため漸次安定化するものと見られている(前橋)。

一方機屋筋は糸価急騰に、現在の織物相場では採算がとれないため、先物契約の履行以外には原糸引取をストップし成行を注視しているが(前橋)、一部手持原糸の乏しい筋は設備の稼働率維持旁々円レート切下げの思惑を有している向もあり(甲府)、之に對し市銀筋は現行糸価による製織を危険視し機屋に対する原料糸買付資金を制限している(前橋)。

又問屋筋は織物消費税撤廃見越しに、買控えは濃厚であるが、市価上昇を見越しての売控えも見られる(甲府)。

(2) 配炭公団廃止後の石炭事情

配炭公団廃止後の出炭状況をみると、宇部炭は減退が予想されているが(下関)、北海道炭(札幌)九州炭(福岡、長崎)は引続き好調で、競つて良質炭を市場に出さんとする傾向が顕著で(札幌)売込競争は激化しており(福岡)、需要者側は炭価下落を見込んで正式契約を拒んでいるため(福岡)、炭価未定の儘送炭をしている向もある(下関、福岡)。

炭価は上級炭は稍々高値乃至殆んど保合、中級炭はトン当り約四〇〇円安、下級炭は五〇〇円乃至一、〇〇〇円安に落付き(札幌)、平均して三〇〇円乃至五〇〇

〇円程度の低落に止まるものと予想されている(福岡)。

市中銀行の石炭関係融資も本行の繋ぎ融資及び延滞認手に対する優遇措置に支援されて漸次軌道に乗りつゝあるが(札幌、小樽、福岡)、中小炭礦筋に對しては警戒消極的である(小樽、福岡、長崎)。炭代決済については一部大口需要者に對しては手形取引が行われているが、販売業者に對しては現金取引を原則としており(小樽、福岡、静岡)、販売業者は資金難に苦慮している(静岡、広島)。

昭和二十四年十月——二十五年三月

一、昭和二十四年十月中

(一) 概況

円レート切下げ問題は総司令部及び政府の切下げ否定の声明により一般は漸次不変とみる方向に固まりつゝある模様で、産業界も一段と合理化を推進せんとする気運が窺われる。然し磅切下げ後の輸出契約は停頓状態で海外に於ける買控え傾向は根強いものがある。然し日英通商協定の調印接近、フロア・プライスの撤廃及び民間貿易拡大の報は自由貿易への接近を意味するものとして一般に好感を以て迎えられ輸出契約の進捗を伝えている向もある。内外購買力の減退で滞貨は増嵩の一途を辿つてゐるが、一部には手持原材料の払底と共に荷動きが活潑化しているものもあり、今後の推移が注目されている。然し中小企業の経営難は依然深刻で、不渡手形が増加すると共に貸銀遅払現象も漸次拡大している。

(二) 金融

預金

市中銀行の預金は期末粉飾の反動(各店)で激減すると共に納税資金の引出(各店)、政府指定預金の引揚げ(各店)、公団預金の減少(札幌、小樽、青森、仙台)、商況の不振(名古屋、高知)、及び貸出増勢鈍化(大阪)を反映して漸減し、早稲米代金の流入により稍々増加した地方(秋田、新潟)を除き一般に減少を示した(各店)。尚小口預金は依然底固い増加を示しているが(小樽、松本、大阪、京都、高松、大分)、大口預金の吸収難(岡山)及び一部には現金退蔵傾向が見られるとこ

ろもある(札幌)。

貸 出

預金減少と年末金融状況に対する見透難から市中銀行の貸出態度は稍々警戒気味となり(各店)、本行の貸出抑制を口実にしている向もあり(静岡、下関)頃来の貸出増勢は鈍化を示した(各店)。然し回収の不振(大阪)旁々購置資金等季節的資金需要(福島、前橋、甲府、松本、熊本)の外、放出綿布の引取資金を大宗とする織維関係資金(名古屋、京都、大阪)、鉄鋼関係増加運転資金(大阪)、石炭関係資金(札幌、小樽、大阪、福岡、長崎)等の資金需要が幅輳し、滞貨融資的なものも可成りあつたため(名古屋)貸出残高は依然増加を示した(各店)。又中央に於ける年末金融引締を見越して資金手当を地方銀行に求めんとする傾向もみられ(松山)年末手当と見られる申込も現れ始めている(高松)。之が為本行の貸出も増加し最高貸出利率の適用を受けた銀行も少くなかつた(各店)。

通 貨

政府資金の引揚は第二期所得税の移納及び食糧代金の受入等を主因として多額に上つたにも拘らず、本行貸出の増大、供米代金の支払もあり、還収傾向は鈍化し、出超に転じた地方も少くなかつた(各店)。然し供米の遅延に出超は前年に比し下廻つてゐる(青森、仙台)。

(三) 商 況

商況は夏以降の下押し商況から脱し、デパート筋の売上も増加し(秋田、仙台、名古屋、岡山)年末を控えての仕入も稍々活潑化しているが(札幌)、補充買乃至当用買に止り(静岡、広島)未だ好転の兆はみられず(大阪)年末を控えての資金確保に業者の投げ売り傾向もみられる(京都、大阪、松江、鹿児島)。又供米代金に期待した地方も、供米の遅延(青森、仙台、金沢)及び税金や将来の出費に備えた農民の消費抑制(松本)に期待はづれの態であつた。

石炭の荷動きは需要期に入り、貯炭も減少傾向を示し(札幌、小樽)今後の需要増大に公団貯炭払下を要請している向もある(札幌、名古屋)。又手持原材料の払底から、滞貨の代表と目された医薬、染料、電線等の荷捌きもみられ、今後の推移が注目されている(大阪)。

各支店金融報告抜萃 昭和二十四年十月―二十五年三月

波瀾を呼んだ晩秋繭の収納は一段落をつけたが、原料繭の不足から十一月以降休業を余儀なくされるものもあり(松本)設備釜数と原料繭との不均衡是正のため、設備釜三割封印等の如き釜数の制限を希望する業者もあるが(松本、静岡)原料繭の豊富な業者は難色を示しており(甲府)、釜封印の実現が不可能となれば業者は自然淘汰の他なく、中央に於ける蚕糸業対策の樹立を要望している向もある(松本)。他方生糸市況は一頃の倭当り十六万四千円から十四万五千円迄崩れ一応の安定を持しているが(神戸)、円価切下げ見込薄に十四万円割れとなれば一部製糸部門の出血は免れない模様である(甲府)。一方機屋筋も原糸高、製品安に一部採算割れを生じ、操業短縮を申し合せているところもある(京都)。

実際物価は先高見越し乍ら、依然落勢をたどり新米出廻りと共に主食品の値下りは顕著で、織維品も大量出廻りと消費税撤廃見越しに下落を示した(各店)。

(四) 其 の 他

(1) フロア・プライス撤廃の反響

フロア・プライス撤廃は一般に自由貿易への第一歩として好感を以て迎えられ、リベート等の不合理も解消し、今後に於ける商談の活潑化と契約の進捗に多大の期待をかけている(各店)。而して財閥解体、独禁法、労働基準法の存在もあり、海外に於て憂うる如きダンピングの発生は有り得ないとする向もあるが(福島)、めくら貿易の現況では、業者間の競争激化と買手側に於ける買叩きにより(小樽、甲府、京都、岡山、広島、鹿児島)中小企業は苦境に立つものと予想され(前橋、静岡、熊本)、又ダンピングの口実で海外市場から閉め出される惧があるとし(静岡)、前途手放しの樂觀は出来ないとしている(小樽)。

(2) 早場米供出状況と供米代金歩留り予想

早場米の供出は天候不順、検査規格の厳重化等により立遅れたが、月央以降漸次軌道に乗り、早場米供出割当量の供出を完了し(秋田、山形)昨年同期の実績を超過する好成绩を示したところもあつたが(新潟)、一般に補正割当及び米価の未決定により、昨年に比し進捗率は遅れている(各店)。

供米代金の歩留りは農家の資金尊重気分が高まり、関収入に基く濫費が考えられなくなつた等により好転が予想される反面、農家経済の逼迫に米代金を待望し

ている向もあり、その推移が注目されているが、十月末に於ける農中系統各段階の歩留りは昨年比し一〇%方上廻っており(新潟、秋田)、之は系統機関の貯蓄推進もさることながら、農村一般の物より金への考え方が浸透して来たことによるものである(秋田、仙台、松本)。今後の見透しは補正割当及び米価未決定のため困難であるが、農業協同組合の段階において年末五〇%程度と予想されている(京都、青森、広島)。然し問題は供米最盛期に向う今後であり、農業手形が昨年に比し増大しており且農家の現金に対する欲求も可成り強いので、歩留り向上は困難とみる向もあり(青森、新潟、岡山、大分)、又貯金が増加したとしても、それはいわば供米未払代金の性質を帯びており、系統機関の資金運用に慎重な考慮が望まれている(青森)。又供米代金流入時には各種金融機関の預金吸収が懸命に行われているが(秋田)昨年銀行、信託銀行の農業協同組合預金争奪のため高金利の行過ぎが問題化したのに鑑み金利制限等防止策の確立が要望されている(京都)。又農中の特別定期預金に於ける奨励金(年二分)が従来の先払から後払になつた上、本預金見返りで借入れた場合、預入全期間に対し奨励金の支払が行われない事になつたため信託としては採算の点から供米代金は社債乃至金銭信託に廻した方が得策としており、農中への資金吸収に暗影を投じている(高松)。

二、十一月中

(一) 概況

日英通商協定の成立により海外からの引合が活潑化して綿製品等の輸出契約も増加し、円レート切下げ不安を払拭しつつあるが、地方産業中には依然円価切下げ懸念がみられ、この解消には可成りの時日を要するものとみられている。

一方ドッジ氏再来訪により本年度補正予算並に明年度予算の方向が明らかとなり、企業界は今後一層の合理化が要請されることとなつたが、企業の合理化については設備の補修改良等設備資金の融資に期待する向が多く、見返り資金の早急な放出を望んでいる。又企業界は未収未払問題が依然緩和されず、貸銀の遅欠配も漸次慢性化しており、年末金融打開に何等かの手が打たれることを要望している。

(二) 金融

銀行預金は農村方面に於ては供米代金の流入に増勢稍回復を示したが(札幌、新潟)供米遅延のため未だ本格的ではなく(各店)一般に国庫金の引揚順調、商況の不振を映じて増勢は極めて不振であつた(各店)。

農中系統機関の供米代金の歩留りは農業手形貸出等の返済を含めた資金歩留りに於て昨年に比し増加している所もあるが(札幌、秋田)預金歩留りは昨年に比し低下しており(各店)農業所得税、地方税の移納、肥料の繰上げ配給等の資金需要に運用資金に窮する農業協同組合もみられ(前橋)農村経済の窮迫が窺われる(青森、福島、新潟、松山、福岡、大分)。又一部には二十五年度供米代金を引当とする農業手形借入を希望する者も弗々現われる等(前橋)明年度端境期乗切りに対し早くも悲觀的観測がみられる所もある(金沢)。

貸出

預金増勢の不伸を映じて市銀筋は原則として貸出を回収の範囲に止め年末に備えたものの、繊維関係資金を始め資金需要が旺盛であつたため貸出残高は増加を示した(各店)。然し乍ら頃来の資金ポジションの悪化により貸出増勢は鈍化しており(各店)更に十二月には年末決済資金の需要殺到が予想され銀行の手許は一段の逼迫が予想されている(大阪、福岡、松山、高知)。然しこの市銀筋の貸出硬化が一般に必要以上に唱道された結果年末極端な資金梗塞を唱える向があつたことは注目される(神戸)。

通貨

所得税納付及び食糧収入等の国庫金の引揚は依然好調を続け、他方供米代金の支払は供米の遅延に意外に伸びなかつたため還取超過を示した地方が多く(各店)東北、北陸地方の早場米地帯の出超も昨年に比し著しく低下を示した(仙台、金沢)。

(三) 商況

需要期に入り商店街は在庫品の一掃を図っているが、売上は百貨店筋を中心に稍々増加した程度で(仙台、松本、神戸、岡山、松江、熊本、鹿島児)購買力は都

市農村を通じ依然不振を示し（各店）在庫品の投売りが目立ち（京都、広島、高知、長崎）一部には繊維品の返品傾向が顕著となつてゐる（大阪）。業者は供米代金流入後の年末売出しに望みを寄せてゐるものゝ（岡山）一般には期待薄である（金沢、名古屋、大阪、熊本）。

石炭は需要旺盛期に入り貯炭も減少傾向を示し（札幌）一部には炭練り及び輸送力の見透しから燐房用炭の需給不均衡が現われており（小樽）低カロリーの中小炭礦も安定の観がうかゞわれ（札幌）業界の危機も明年三月迄何とか持越された感がある（長崎）。

然し乍ら見返資金の放出遅延から起業関係資金の未払金は増大し関係産業の金詰りを深刻化してゐる（札幌、福岡）。

消費税撤廃問題に絡んで機業地の荷動きは停滞して滞貨が増大しており（新潟、京都）、業者は操業を短縮すると共に（京都）春夏物製織資金の調達に苦慮している（新潟、前橋、金沢、京都）。一方問屋筋は売上げの低下に四苦八苦で（京都）返品傾向も顕著となり（大阪）業者は経営の困難を訴えて中には倒産も現われており（福島）消費税撤廃後の情勢展開及び春物需要期に僅かに期待を寄せてゐる（前橋、甲府、京都）。

実物価格は年末を控えての騰貴を示さず、商品の出廻り増加を映じて引続き落勢を辿り（各店）、消費財の下落が生産財の下落を上廻るに至つてゐる（大阪）。

四 供米事情

供米進捗状況は十月末打切りの早場米については奨励金目当の関係から割当を突破したところもあつたが（秋田、岡山）、更月後は収穫期の天候不順に加え補正割当待ちの見送り、検査規格の強化により伸び足は鈍化し昨年を下廻つており（各店）低等級米及び屑米の買上げを要望してゐるところもある（福島、広島）。又米価の低位決定及び補正割当の期待薄に（秋田、仙台、金沢、岡山、下関、松山、熊本）、供出の前途多難が予想されるところもある（秋田、仙台、熊本）。

尚新潟は昨年より一ヶ月後れて供米を完遂したが、供米の好転は年末及び明年早々に持越される模様である（松江、下関、高松、大分、長崎）。

各支店金融報告抜萃 昭和二十四年十月—二十五年三月

三、十二月中

（一）概況

月央までの政府資金の大幅引揚超過により年末金融は逼迫を思はせたが、預金部資金の市中放出、本行の無条件国債買入等一連の金融緩和対策により市銀筋の貸出態度も可成り緩和し、本行の融資斡旋の積極化と相俟つて、年末金融は比較的平穩裡に移した。

一方労働組合の越年資金の要求については国鉄の仲裁委員会の裁定、人事院の給与勧告を繞り特に官公労組に緊迫した動きが見られたが、一般には企業経理に對する認識が高まつたため昨年の如き波瀾もなく推移した。又越年資金の支払額に付ても企業の優劣の差が明瞭に見られ、金詰りに喘ぐ中小企業筋は既往遅払給料の清算で糊塗した向が多い。

なお明二十五年年度予算案の発表により今後の金詰り深刻化が予想され、業界では民間自由輸出貿易の復活、輸出C I F建の実施による輸出増進に望を嘱し、又年明け後実施の民間輸入に期待をかけてゐる。

（二）金融

預金

市中銀行預金は月央までは国庫金の揚超、供米遅延、商況不振により不勢に推移したが（各店）、月央以降供米の進捗（仙台、福島、前橋、大阪、神戸、広島、高松、松山、福岡）、預金部資金の金融機関預入、配付税配付金等による公金預金の増加（各店）を主因に増勢は顕著となり、更に下旬に於ける年末資金の還流（函館、大阪、岡山）旁々粉飾（大阪）もあつて著増を示した（各店）。

又無記名定期預金も最後の追い込みに可成りの好調を示したが（札幌、青森、福島、大阪、神戸、長崎）反面預金振替も可成りあり（松江）、又無記名定期預金の吸収が貸出の増加を招いたことも看過出来ない（大阪）。なお一月以後における無記名定期預金の新規募集禁止の措置に付いては一般に予想されていたこととて目立つた反響はなかつたが（札幌、甲府、京都）、市銀筋では折角伸びて来た定期預金の募集が今後困難になることを予想し（仙台）、小口零細資金の獲得に腐心しており（大阪）、又無記名であることを強調して募集した手前既存のものについて

は期日迄その儘認めて貰いたいと要望している(函館)。

農業協同組合預金は供米補正量の末端割当決定(広島、高松、福岡)、供米検査規格の実質的緩和措置(甲府、熊本)及び農家の肥料購入資金(甲府、静岡)並に越年資金調達(仙台、広島、下関)のため下旬に入り供米が著しく進捗したため増勢を示したが(各店)、その歩留りは農家の支出抑制傾向にも拘らず(新潟)、税金(岡山、広島、松江、高知)債務返済(福島、広島、高知)春肥代金の増大(新潟、前橋、下関)により昨年に比し低下しており(各店)、早場米地帯では農業手形は二月には相当出廻るものと予想されている(秋田、新潟)。又農村恐慌懸念に備えて農村工業の拡充(札幌)その他農村多角経営に対する具体的動きも見られる(高松)。

なお農業協同組合の余裕金を繰る銀行、信託等の預金争奪は各行の自粛申し合せもあつて、昨年の如き行き過ぎ傾向は見受けられない(京都、神戸)。

貸出

銀行資金ポジションの悪化に伴い各行は貸出手控への基調を続け貸出は月央迄さしたる増加を示さなかつたが、月央以降預金が増勢に転じたこと、本行が金融緩和措置を採つたことの影響もあり、市銀筋の貸出態度も稍々積極化し、本行融資斡旋の積極化と相俟つて可成りの伸長を示した(各店)。之がため懸案の晩秋蘭精算未払金(前橋)炭礦未払整理資金(札幌、下関、福岡)機業資金(新潟、前橋、甲府)等概ね解決をみるに至り、年末金融緩和に資するところが大であつた(各店)。然し乍ら資金の供給が下旬に偏在したため中小企業迄浸透するに至らず(新潟、松江、福岡、大分)、又市銀筋は適当な融資先がないため稍々持て剩した気配も窺われ(仙台)、昨年の如き市銀筋の資金繰逼迫傾向は見られず、本行よりの借入金も減少し余裕裡に越年した(各店)。なお、貿易手形は輸出好転を反映して増加を示し(大阪)、内容的には繊維関係が主流を占めている(神戸)。

通貨

上旬は国庫金の引揚好調、供米不振、年末諸給与支払不活潑により銀行券は入超を示し、中旬に入つても入超が続いたため月央以降特に下旬に入り供米の進捗、年末給与、決済資金等の増嵩により急激に膨脹を示したにも拘らず月中銀行

券の発行超過額は一般に昨年同月を若干下廻つた(各店)。

(三) 商況

歳末に入つた商店街は納税資金の捻出、頃來の売行不振挽回のため活潑な宣伝を開始したが、上中旬は客足が伸びず商況は不冴の儘に推移し、年末近く諸給与支払が見られるに及んで活況を呈した(各店)。然し乍ら購買力は主として百貨店筋に吸収されたため小売商筋は依然不振を示し、両者の懸隔は拡大し(各店)、小売商筋の採算割れ覚悟の投売が見られた(甲府、神戸)。百貨店筋は昨年を上廻る売上好成绩を示したが(各店)、かくの如き好況は百貨店の消費性向にマッチした経営企画、商品仕入の優位性(神戸)、統制の撤廃による取扱商品の種類の増加(函館)によるものである。

なお価額的には値需物の売行は不振で(神戸、松江、熊本)、中間程度のものが好調を示し、インフレ利得の消滅と大衆消費層の底固い需要を映じている(神戸、岡山)。又売上品目も食料品に比し衣料品の売上が目立ち、衣食に対する支出割合の安定化傾向がみられる(岡山)と共に、際物的正月用品が案外振わず(松江)堅実な需要傾向が見られた(大阪)。

右を映じて実物価は年末需要期にも拘らず商品出廻りの順調、実需の減退に加うるに商品の売急ぎ等もあつて下落傾向を示した(各店)。

四、昭和二十五年一月中

(一) 概況

年明け後の経済界は期待された輸出が伸長せず、加うるに納税期を控えての国内市場の不振により、一般に警戒人氣は濃厚で沈滞氣味に推移し、殊に中小企業筋では三月危機説が伝えられる等今後の動向が注目されている。右を映じて株式市況も低調で、証券会社の窺状は深刻化しており、之が立直りには業界では根本的株価振興対策の具体化を要望している。

(二) 金融

市中銀行の預金は年末粉飾の反動(大阪、松江、松山、広島、福岡、神戸、高松)年末滞留資金の流出(神戸、広島、熊本)、租税の移納(各店)、商況の不振(札

幌、新潟、大分、熊本)供米代金の還流不冴(神戸、広島)等により延び悩み乃至は減少傾向を示し(各店)、予想される徴税強行と相俟ち今後の動向が注目されている(札幌、青森)。然し乍ら一部には先行安値見越しによる買控え、生産控えに伴う一時的滞留購買力の預金化現象も見られる(名古屋)。

次に農業協同組合預金を見るに、供米は進捗を示したが前年に比すれば好調でなく(各店)、且つ供米代金の大部分は納税資金、生活費、農業手形等借入金金の返済、肥料購入資金等に使われ、その歩留りは極めて低く(各店)、更に今後の徴税等の圧力重加に歩留の一段の悪化が予想され(神戸、松江、高松、高知)、今後の農業協同組合の預金動向は慎重な注意を要するものと見られている(静岡)。殊に単作地帯の農業協同組合の資金繰は逼迫化しており(秋田、前橋)、焦燥の色が濃く(福島)、群馬県では既に無担保借入が予想され、県信連も亦二月中旬前後には農中より無担保借入をせねばならぬのではないかと予測されている(前橋)。之を映じて本年度農手の利用額は増大するものと予想されているが(仙台、金沢)他面農手の利用が昨年は稍々ルーズに流れた点に鑑み農中に於ても多少抑制方針に出ており(仙台)、且つ農家に於ても借金経済に対する反省が漸次擡頭しているかに窺われる(金沢、鹿児島)。

貸 出

年末決済資金の回収が進捗した反面(秋田、前橋、松山、松本、神戸、下関)、年明け需要一服旁々(大分、仙台、神戸、下関、松山、高知)業界の不振を映じて季節的資金以外に積極的資金需要もなく(大分、岡山、秋田、松本、神戸、高知)又預金減少見越しによる市銀筋の貸出手控え(札幌、大阪、大分、新潟、福岡、金沢、松江)金利引下げ見越しの借控えもあり、市中銀行の貸出残高は横這い乃至は減少を示した(各店)、然し最近取上げられつゝあるオーバーローン問題が余り大きく扱われるときは、さなきだに困難な地方金融を一層窮屈にするものと見られている(静岡)。

銀 行 券

昨年末臨時寄託券制度を実施しなかつた関係で年明け後銀行券は大幅の還収を示し、其の後も国庫金の引揚好調、一般的資金需要状況を映じて還収超過を続け、

下旬には月末決済資金需要に出超に転じたものゝ月中還収率は昨年を遙かに上廻つた(各店)。

(三) 商 況

商品の売行は年末に引続き上旬は案外良好な成績を示したが(各店)、中旬以降は一般購買力の一巡旁々先安見越しの消費見送りにより不冴に推移し(各店)、徴税期を控えて不振打開の好材料もなく、悲観人氣濃厚で(甲府)採算割れを来たしている業者も少くない模様である(松本)。右を映じて物価も低落傾向を示し(各店)、米の闇価格は農家の売急ぎから一部の農村では配給価格を下廻つた所もあった(秋田、新潟)。

織物消費税の撤廃も一般の安値見越しの買控え傾向が強くなりたる効果を示さず、繊維品の売行は期待はずれの不冴で(名古屋、京都)、問屋筋は徴税と商品代金決済と競合する三月を控えて小口取引による回転の効率化、手持品の縮減を図る等自衛対策に懸命で(名古屋)倉庫証券金融を求めているところもある(京都)。之を映じて機業地は部分的操短の実情にあり(前橋)一部組合は採算割れに休機を申し合せる等慌しい様相を呈している(名古屋、金沢)。但し之は問屋筋に対する価格の引上げを齎し及び税務署に対する徴税攻勢を免れんとするゼスチユアールと見られる向もある(名古屋)。

(四) 其 他

(1) 貸出金利改訂の反響

二月一日より実施のことゝなつた市中金利引下げ決定の反響については、大企業方面に於てはコスト引下げに益するところ大であるとしてこれを歓迎しているが、中小企業方面に於ては金利の高低よりも貸出が行われるか否かに関心を示し、金利の引下げは銀行の貸出厳選主義に拍車を加えるものとして今後の貸出を懸念している(各店)。

一方銀行側は当初伝えられた案より可成り緩和され、実質的には一厘引下げ程度となつたので已むを得ないとし(札幌、小樽、秋田、前橋、新潟、松山、福岡)本行のオペレーションによる国債の高利債券への運用替え(福岡)預金の増加(新潟、京都、福岡、松山、鹿児島)千円券の発行と関聯して経営の合理化を促進すること(新

潟、前橋、京都等により之が損失をカバーせんとして居り、又新規貸出の取捨選択には一層の慎重を期すると共に（新潟、前橋）貸倒準備金を厚くするよう希望している（京都）。なお本行の高率適用の緩和、特に優良商業手形を全面的に高率適用手続から除外したことは一般に好感しており（各店）、銀行筋も優良商業手形の割引に対しては積極的に出ようとする気運が見受けられ（小樽）、今後商業手形の出廻りは増加するものと見られている（前橋、京都、松山、福岡、鹿児島）。

(2) 千円券の発行

千円券は七日発行以来、商取引の決済、官庁、会社の給料賃銀支払に全面的に歓迎利用され（神戸、新潟、岡山）、割当を上廻る程の需要旺盛を示している（各店）。かゝる流出好調の原因は大口現金取扱者が極力これを使用する点に求められ、懸念された現金退蔵傾向は目下のところみられない（各店）。

銀行側の人員節約については未だ千円券の出廻りが一般に行渡っていないところから労働過重が若干軽くなった程度で、総人員の減少は当分の間考えられない模様である（小樽）。又商取引の現金決済が若干増加し、小口地方送金の減少傾向が窺われ（静岡）、今後の取引決済方法の動向が注目されている（静岡、京都、広島、熊本）。更に供米代金の支払にも逐次利用されて居り、生活費等の小口払資金は成るべく千円券を使用させないという系統機関の指導もあつて未だ滲透していないが末端迄滲透したならば現金の退蔵を懸念する向もある（新潟）。なおこの機会に一般に小額紙幣の整理を要望し（新潟、前橋）、又五百円券の発行を要望している向もある（京都、岡山、大分）。

(3) 見返資金による中小企業融資の反響

中小企業に対する見返資金融資については金詰りに喘いでいる中小企業方面に相当の反響を呼び本行並びに市中銀行への照会は可成りあつたが（小樽、仙台、福島、金沢）業者側が書類作成に不慣れであり（仙台、広島、福岡）又適格性のものが少なく（小樽、仙台、甲府）、そのため本行へ具体的に融資を申請するに至つたものは少なかつた（各店）。

本融資に対する銀行側の態度をみるに、融資の長期固定懸念から出し渋つていたものに対しては見返資金の併用により地元産業育成という立場からこれを取り

上げて行く気運も見られる（秋田、金沢、甲府、岡山、福岡）反面、企業の先行き見越し困難及び半額自己負担となるため資金固定化の問題があり（福岡、松本、小樽）、又企業が運転資金の調達に困難を来たしている現在、設備資金をみるとすればそれに伴う増加運転資金の要資も考慮せねばならぬこと（小樽、福島）等から、貸出は将来の取引先に限定する等警戒消極的態度を示し（名古屋、小樽、広島、下関、福島、京都）、内容審査に慎重を期している（松山、長崎）。

融資対象企業を資本金三百万円以下に限定していることについては、真面目な中小企業は偶々自己資本充実の方向に進んで来ている関係上、折角の見返資金も中企業と目せられるものがその恩恵に浴し難い点もあり、之が拡大を要望する声が高い（名古屋、静岡、岡山、長崎）。又地元業者の要望として総体の枠を増大し、出来得れば地方毎の枠を設けて地方特殊産業に資金が流れるよう考慮して欲しいとの声が聞かれる（仙台、函館）。

(4) 証券事情

株式市況は引き続き低調裡に推移し、証券業者の窮状は益々深刻となつており（大阪、名古屋、静岡）、昨年十二月末勘定に於て殆んど全部の証券業者が赤字を計上し（静岡）、休業（名古屋）乃至支店出張所の廃止を実施する業者が出ており、之が立直しのためレギュラーウエイの全面的採用、市場浮動株の棚上げ等の諸施策の早急な実施が要望されている（大阪）。

五、二月中

(一) 概況

磅地域に於けるライセンス問題が未だ順調化しないため輸出は依然低調裡に推移し、これが狭隘な国内市場に皺寄せせられ、折柄の徴税強行と共に産業界は不安定な様相を呈している。殊に中小企業の経営難は更に深刻化し又農村方面の困窮はその度を深め、物価も落勢を強める等デフレ的様相が逐次表面化している。然し乍ら本行のオペレーション、政府関係資金の市中銀行への預託等一連の金融緩和政策の進展により中小企業三月危機説の如く中小企業が急激な危険状態に入ることとはあるまいと一般に見られている。

なお現在の苦境を脱するためには金融政策のみでは既に限界に到達しつつある

として見返資金及び預金部資金の活潑な運用及び超均衡予算の修正等財政面に於て何等かの調整措置を要望する声が一般に高まりつつあることは注目せられる。

(一) 金 融

預 金

一月減少を示した市中銀行の預金は更月後も納税資金の引出、売行不振による商況の不冴(各店)に加えて旧正資金の引出(高松、松山、高知)もあり減勢に推移し(各店)、下旬に入り政府資金の撤布(各店)、旁々貸出の増加(大阪)旧正資金の還流(名古屋)に稍々持直したが(名古屋、大阪)大勢は相変らず不調に終った(各店)。

一方農中系統金融機関の供米代金の歩留りは著しく低下し(各店)、単協の中には貯払資金が枯渇し払出制限を行つていものもあり(秋田、名古屋、京都)、その資金繰は窮迫化している(各店)。

貸 出

市中銀行の貸出態度は引続き厳選気味ながらも(各店)、本行のオペレーション、政府関係資金の預託等金融緩和政策の浸透もあり貸出は増加を示したが(各店)、他面貸出の回収遅延による延滞漸増の傾向も見受けられる(仙台、長崎)。

貸出は季節的資金の外原綿、原毛関係の貸出が目立ち(名古屋、大阪、神戸)又徴税の進捗に伴い優良貸出先に対する納税資金の貸出も可成り出た模様である(名古屋、小樽)。又市銀筋は本行の再割適格手形の要件を具備するものである限り貸出増加も差して意に解せぬ模様で(神戸)手形の再割引により本行の貸出は増加の傾向にある(小樽、静岡、京都、神戸)。

見返資金による中小企業への融資については本行の熱意と指導により中小企業と雖も有利な融資を受け得るものであるという好印象を与えた模様で(各店)、金融機関に於ても優良中小企業に対しては将来預金源としての見地から積極的これを保護育成せんとする態度も窺われ(小樽、静岡、名古屋、長崎)、趣旨の浸透と共に本行への申込は今後可成り増加するものと予想されている(小樽、新潟、名古屋、大阪、下関)。然し乍ら他面優良中小企業中には今後通貨価値の上る傾向にある関係から借入額も出来るだけ最小限にしたいという堅実な動きもみられ

る(静岡、下関)。なお市銀筋では自己資金による分の半額程度を信用保証協会の機能強化により保証することを希望し(広島)、又見返資金と銀行との負担割合を七対三に変更することを要望する向がある(名古屋)。

銀 行 券

銀行券は更月後も租税移納を中心として収縮の度を緩めなかつたが(各店)中旬以降一連の金融緩和策の実施もあり還収の足取りは緩慢化し、結局月中の還収超過額は前月を下廻り(各店)徴税期としては異例の出超を示したところもあつた(秋田、仙台、大阪、岡山、下関、松山、高知、福岡、長崎)。

(二) 商 況

商況は依然不冴に推移し、春物需要期に入り繊維問屋筋において稍々活況を呈したところもあつたが(名古屋)、一般の買控え傾向は顕著で(各店)、業者は年末振出手形の決済、納税資金の捻出、新規仕入資金の獲得のため滞貨の換金を急いだため、各種の投売戦術が一般化し、特に粗悪品のそれが顕著にみられるが、これが消費者の買控えと良品選択傾向を助長し物価の下落に拍車をかけている(各店)。殊に絹、人絹織物価格は大幅の低落を示し(各店)、換金急ぎと物価低落の一般風潮に押されて一部では良品まで原価を割つて処分を余儀なくされている状況も見受けられる(京都)。然し商店筋では徴税が一段落すれば春向衣料品の売上が小口需要ながら若干向上し(甲府)物価も昨今が底で四月以降若干持直すものと希望的観測をなすものもある(大阪)。

(三) 其 の 他

(1) 中小企業の状況

売行不振、受註減少、売掛金の増嵩により中小企業の経営難は一層深刻化し、税金の滞納、賃銀の不払、滞貨の増嵩等の現象が増加すると共に不渡手形も著しく増大し(各店)、現状のまゝでは中小企業は約二割乃至一割程度の整理が不可避免とみられている(札幌)。殊に一〇〇名以下(高知では五—三〇名、広島では三〇—五〇名、高松では六—一〇〇名程度)の規模の中小企業が最も深刻で最近にいたつては漸次上層の中規模企業に及ぶ傾向がみられる(高知)。又業種別には土建業(札幌)、炭礦機械器具メーカー(札幌)、農機具メーカー(札幌、高知)、製糸業

(松本、福島)、織物業(前橋、金沢、甲府、京都)、製材木工業(札幌、新潟、甲府、松本、松江、高松、松山)、機械器具工業(甲府、大阪、岡山、松江、松山)、木造船業(岡山、高知)、製紙業(松山)、金属工業(大阪)、綿以外の紡績工業(大阪)、化学工業(大阪、高松、福岡)の整理縮小が顯著にみられる。かくて中小企業業の苦悶の色は濃くなっているが、最早や単に資金面のみでは解決されないものが多く(青森、新潟、松本、京都、福岡)、その根本的解決には企業の側に於ける合理化対策の早急実施が勿論必要であるが、他方内外の有効需要の回復が極めて重要な問題であり(新潟)、余程強力な購買力増強対策が議せられない限り脱落者の続出は避けられないとみられ(大阪)、超均衡予算の修正を要望する声も次第に高まっている(松本)。

なお中小企業金融対策としてとられた市街地信組、無尽に対する預金部資金の預入は中小企業に好影響を与えたが(各店)、本制度を円滑に運用するためには上級機関の整備(静岡)、預託金の増額(京都、下関)、金利の二厘程度の引下げ、預託期間の一ヶ年以上への延長(下関)が要望されている。

(2) 農村事情

シェーレの拡大、閑収入の減少、農家副産物の価格安により農家所得は減退しているにも拘らず多額に上る農手の返済、納税資金の圧迫により農家経済は逼迫の様相を呈し(金沢、岡山)、借入金返済の返済に労力の提供を行つては農家もみられる(青森)。又昨年には三月末に開始した農手が今年には既に弗々見受けられている(秋田、新潟、前橋)。なお県購連の計理内容は報奨用衣料品等ストックの増加、単協よりの未収金回収遅延等から悪化しており(各店)、一部地方に於ては支払手形が不渡となり(秋田、仙台、金沢)、取引停止処分を受ける(前橋)等の事例がみられ今後の成行が注目されている(各店)。

農協組の資金繰りも可成り窮乏となり、預金の払戻制限をしているところもあり(秋田、京都、岐阜県の一農協組に於ては資金運用の固定化並に役員に対する不信任から一時取付状態をみるに至る等(名古屋)、更月後の納税及び営農資金需要期に於ける農中系統機関の動向には深甚なる注意を要するものがあり(前橋、新潟、静岡)、その運営方針の検討改善が要望されている(秋田、名古屋、熊本)。

六、三月中

(一) 概況

年度末金融緩和施策に支えられ中小企業の所謂三月危機も表面的には一応切抜けられた模様で、商況も季節的需要の擡頭により二月を底として稍々立直り、業者は辛うじて一息した感が窺われる。然し乍ら内外に於ける購買力の依然たる不振、優秀品出廻りを見越しての買換え気配に業界は相変らず沈滞気味に推移し、中小企業方面の貸金の遅配及び企業整理は引続き増大している。又農中系統金融機関の金繰りも更に悪化し、貯払の停止乃至制限を行う農協組が増加しており今後の動向が問題視されている。

(二) 金融

預金

市中銀行の預金は本行のオペレーション、政府関係資金の預託を主因に可成り伸長し、加うるに期末に於ける預金粉飾もあつて増加を示した(各店)。然し乍ら実質預金の増勢は税金の圧迫、農村の不況等を映じて依然伸悩んでいる(各店)。農協組貯金は納税資金、営農資金の引出しにより減少を示し、貯払の停止乃至制限を行つてはいるものが広範囲に発生している(各店)。

貸出

市中銀行の融資態度は引続き厳選気味であるが(各店)、納税を主因とする要資の増大、年度末決済資金の擡頭により貸出は増加を示した(各店)。然し乍ら銀行の金繰りは政府資金の預け入れ等の年度末金融緩和施策により余裕裡に推移し、本行の貸出は微増乃至収縮を示した(各店)。

銀行券

租税の移納が嵩んだ反面年度末を映じての政府の支払も進展し(仙台、名古屋、大阪)、加うるに春耕資金の需要旺盛(札幌、仙台、福島、松本)、期末決済資金の需要増大(各店)により銀行券の還収傾向は鈍化し、出超を示したところもあり、懸念された年度末通貨状況もかなり軟化した(各店)。

(三) 商況

商況は春物、新学期用品の季節的需要の擡頭により売上高は若干増加した(各

店)。然し乍ら一般の選択買傾向は依然強く、一方手形決済、納税換金急ぎにより投売りは依然継続されている(各店)。

右を映じて実勢物価も依然低調裡に推移した(各店)。

年初来内需の極度の売行不振、フロアプライス撤廃に伴う輸出向価格の不安定により絹織物等の繊維品価格は依然落勢を辿り、これが為機屋筋は三月に入り生産調節のため一斉休機を行うという事態の発生をみるに至った(福島、金沢、甲府)。然し乍ら月央以降春物需要の擡頭、或は公団所有滞貨の放出見合せ等の好材料により市価も一割乃至一割五分程度の反撥を示し(甲府、京都)、一部には原糸漁りも見られる等(前橋)機業筋は或る程度の明るさを取戻している(金沢)。なお四月以降操業再開が予想されているが(前橋、甲府)、全面的操業となれば再度相場も下押すとの観測をする向もある(甲府)。

一方製糸界は休業により糸価の回復、端境期に於ける手持蘭消尽による新蘭価高の防止を図っている(甲府、松本)。新蘭価については五、〇〇〇掛程度に落着くものと一般に予想されているが(松本)、昨秋に於けるが如き蘭取引の混乱と糸価の急激な変動をさけるため製糸家、養蚕家は糸価安定対策の樹立を要望しており、特に本行の購蘭スタンブ手形の基準掛目の早期決定が望まれている(前橋、松本)。

四月一日より魚類の配給及び価格の統制が撤廃されることとなつたが、従来指定荷受機関として金融の便を受けていた業者中には自由競争により自然淘汰を余儀なくされ、廃業するものも出るものと予想され(仙台、広島、長崎)、出荷代金回収悪化の折柄既往売掛、未収金の回収が問題となつており(長崎)一部銀行筋では貸出の固定化を懸念している(仙台)。又統制撤廃後の魚価の見透しについても悲観的傾向が強く(長崎)、撤廃の掛声に大幅の下落を示したところもあつた(仙台)。然し沿岸漁業者中には一般遠洋漁業に比し鮮度の良い点から価格の点で有利となるとみている向もある(広島)。

株式市況は依然低調裡に推移し(大阪)、株価も昨年末底値を遙かに下廻つた(名古屋)。

(四) 中小企業金融事情

各支店金融報告抜萃 昭和二十四年十月—二十五年三月

中小企業金融の金詰りが深刻化している折柄各地に於ける中小企業金融の実施状況をみるに次の如くである。

(イ) 見返資金による中小企業融資

中小企業に対する見返資金融資は漸次増加の傾向にある(小樽、仙台、前橋、松山、高知)。その融資先としては輸出向広幅力織機の設備関係資金(前橋)、綿布、タオル等織布専門業者の特殊綿布製織用設備資金(松山)等の輸出産業及び鉱山機械メーカー(小樽)等の重要産業関係産業が目立つている。なお業者の側に於て先行見越し困難により設備改新の決意がつかかっているところもある(札幌、熊本)。

(ロ) 本行の中小企業別枠融資

商工中金に対する本行の中小企業別枠融資はフルに回転しており(熊本)、三月一日に新設された北拓に対する二億円別枠による融資も好調を示し、三月末迄には枠を全部消費し尽すものとみられており(札幌)、今後別枠の増加を要望する声が強い(小樽)。

(ハ) 信用組合及び無尽会社に対する本行の国債買上げ代金及び預金部預け金の運用状況

本行のオペレーション、預金部資金の預託による信用組合及び無尽会社を通ずる資金の放出は優良貸出先の選択難からその大半を銀行預け金、金銭信託、割引興業債券の購入等にあてゝおり(札幌、名古屋)唯無尽会社の預金部預け金の運用について稍々積極性が窺われるところもある(名古屋)。然し地方によつては信用組合、無尽会社に預けられた預金部預け金が全額貸出に充当されたところもあり(仙台)、又預金部資金の預託を受けなかつた信用組合に於て本制度の利用を希望している向もある(松本)。

(ニ) 信用保証協会の保証による融資状況

信用保証協会の保証能力の薄弱が問題となつてゐるが(高知)、最近の中小企業金融逼迫に対処して保証限度の拡張が企図されている(京都、高松)。なお地銀筋では信用保証協会の中央機関を設け同機関が再保証をし、更に保証協会関係資金を政府が銀行に流す等の措置により地銀負担の軽減を計ることを要望

しているところもある(高松)。

(四) 県余裕金の商工中金への預託

県余裕金を商工中金を通じて中小企業へ融資する計画が各地に於て真剣に採り上げられる気運が高まっている(秋田、金沢、高松、高知)。然し業者の融資希望額は県の預託金額を遙かに上廻り、中には便乗的なものも少くなく、右の内どの程度が採り上げられるか疑問とされている(秋田)。

(五) 其の他

中小企業金融難に対処するため業者の側に於ても信用協同組合設立の動きが漸次高まっているが(福島、静岡、松江)、中には小規模のもので経営上の諸点に難色が窺われるものもあり(静岡、松江)、組合の濫立防止旁々資産構成の健全化、上級機関の設置等が必要視されている(松江)。なお長野県に於ては全県一本の信用協同組合結成の気運がみられ、その成行が注目されている(松本)。

又神戸銀行に於ては中小企業金融専門店舗とは別に信用保証協会の保証の下に兵庫県一〇〇百万円大阪府三〇〇百万円を融資総額限度として中小企業に融資する中小企業特別融資制度を設け四月一日より実施することとなつたがその成果が期待されている(神戸)。

右の如く中小企業金融対策は一応出揃つた感があり、之が円滑な運用については企業の側に於ける合理化の促進が要請されている。然し中小企業の苦況を打開するためには金融政策のみによる対策には既に限界があるとして内外有効需要の喚起のための何等かの措置を要望する声が一般に強くなっている(福島、京都、広島、松江、高知)。

(四) 農村金融事情

供米代金の流入一巡後納税資金、営農資金の引出顯著なため農中系統金融機関の資金繰は一層深刻化し、貯払の停止乃至制限を行う単協組が各地に発生している(各店)。尤も多角経営の可能な天然条件に恵まれている地方の農村金融は比較的余裕を示し(神戸)未だ表面的な問題となつていないところもある(静岡、松山、福岡、熊本)。

農村金融逼迫の原因としては米価の低位決定、闇収入の減少、納税資金の重圧

及び肥料等の値上りによる営農資金の増大にもよるが、更に系統機関の運営の拙劣による資金の固定化、報奨物資の滞貨の増大によるところも大である(各店)。之に対し農中、県信連に於ては単協組に対し、出資金の増大(仙台)、過大資産の売却、定期性預金への強制振替等種々の対策を考慮指導しているが(松江)、更に滞貨、未収金等に対する特別の措置の実施が望まれている(札幌)。又季節性の激しい資金を対象とした金融機関が成り立ち得るや否や金融機構の検討が望まれている(松本)。

右の如き単協組の金繰りの悪化を映じて県信連の金繰りも逼迫化し、貸出金の回収強化、事業連に対する貸出の制限を行つてはいるが、その成果は余り期待出来ず、四月以降出来秋迄の端境期に於ては農中よりの無担保借入に依存せざるを得ない実情にある(各店)。かくて系統機関金融の逼迫は昨年比し二カ月早められた感があり(前橋、松江)、農業手形の出廻りも昨年より増大している(各店)。

各国の支払準備制度註

(ニューヨーク連邦準備銀行月報
一九五五年十月号掲載論文翻訳)

〔要 旨〕

一、ここ数年間多数の国において支払準備制度が創設され、又支払準備率の変更も度々行われ、信用抑制手段としての支払準備制度の役割は大きくなつた。現在迄の経緯は支払準備制度及び準備率の変更という機能は公定歩合政策、公開市場操作とともに金融調整の主要な役割を果すものであることを示している。

二、支払準備制度は当初預金者保護の目的をもつて設けられたものであるが、一九三〇年以降量的金融調整の一手段として再認識され、一九四〇年以降支払準備金の設定及び支払準備率変更の権限は金融調整の一手段として中央銀行に對し付与される傾向は一般的となつた。